

VISIT JAPAN大使

(令和6年4月1日現在(50名))
(50音順)

あだち たかのり
足立 隆則 氏【公益財団法人足立美術館 代表理事・館長】

日本庭園を通じた日本文化の発信と訪日外国人を対象とした受入環境の整備

足立美術館(島根県安来市)は日本画や陶芸を所蔵するほか、広大な日本庭園を有し、徹底した維持管理が高く評価されている。アメリカの日本庭園専門誌によるランキングでは2003年から連続で「庭園日本一」に選出され、日本庭園を通じた日本文化の発信、外国人誘客に貢献している。同館では、多言語パンフレットの設置や日本画の解説への英語併記など、外国人入館者の利便性向上に取り組んできた。2006年には全国の美術館で初めて「ビジット・ジャパン案内所」(外国人対応日本観光案内所)の指定を受けている。



あらまき だいしろう
荒牧 大四郎 氏【歌舞伎座舞台株式会社 代表取締役社長】

歌舞伎を通じた日本の魅力の海外発信、外国人旅行者の受入体制整備

松竹株式会社取締役在職中、日本の代表的な伝統芸能である歌舞伎の海外公演や英語での公演等を通じ、歌舞伎の国際化のための取組みを社内で先頭に立って推進した。海外における歌舞伎公演は60回(108都市35カ国)を超え、1回の公演で数千人から数万人の規模で入場者を集め、歌舞伎のファンを世界中に広めている。また、歌舞伎座において、英語イヤホンガイドを外国人の観客が多い幕見席に導入するなど受入体制の整備に努めるとともに、歌舞伎を通じた日本の魅力の発信に積極的に取り組んでいる。



アレックス・カー 氏 (※)【東洋文化研究家】
【特定非営利活動法人チイオリ・トラスト 理事長】

京都の町家再生等に取り組む日本文化を体感できる観光資源創出に貢献

東洋文化研究者として、執筆、講演、通訳等の活動を通じて、日本に残っている素晴らしい田舎等の美しい景観や日本文化を諸外国へ発信してきた。また、自ら徳島県祖谷(いや)の茅葺古民家の修復に取り組むとともに、30年以上にわたり茶道、書道、能、狂言等の伝統文化の体験研修事業を実施してきた。2004年から2010年まで京都で町家再生事業を営み、その後NPO法人「チイオリ・トラスト」の理事長として伝統家屋の修築保存活動、景観コンサルタントを日本各地で展開している。



あんざい たかし

安齋 隆 氏 【株式会社セブン銀行 特別顧問、学校法人東洋大学 理事長】

海外発行カードによる多通貨決済サービスを開始

セブン銀行のATMは12の言語に対応しており、海外で発行されたキャッシュカードやクレジットカードなどで日本円を引出すことができるサービスなどが、訪日外国人の方々にご好評をいただいています。

2022年7月からは、日本円を引出す際に、決済通貨を選択できるようになり※、さらに利便性が向上しました。今後も訪日外国人の増加が見込まれる中、日本での現金ニーズにしっかりと応えできるよう努めてまいります。

※ Visa・Mastercardの海外発行カードが対象です。



あんどう

安藤 エリザベス 氏 (米) 【文化の味 (A Taste of Culture) 主宰】

米国において日本食を紹介した日本食ブームの火付け役

北米における「日本食の伝道師」的な存在。米国において1975年に日本食に関する出版を行って以降、「New York Times」に連載する等、寄稿、出版活動に従事。米国における「ヘルシーな日本食」ブームの火付け役である。また、多くの米国フードライター取材に関するアドバイザーになる等、日本食の情報発信窓口として貢献している。日本への「カリナリー・ツアーリズム」を招聘促進。併せて「文化の味」日本料理教室を東京で運営。



イー ヨンスク

李 容淑 氏 (韓) 【関西国際大学 国際コミュニケーション学部 教授】

韓国からのインバウンドツアーを促進し営利を超えた日韓の理解増進に貢献

平成7年、主に韓国からのインバウンドツアーを取扱う旅行会社を設立、訪日促進に貢献した。文化的な違いに対する理解を深め、我が国の接遇向上に活かす取組みとしての講演会等を多数開催し、韓国においても、日本の文化の象徴である日本酒や日本人の文化・習慣等について、韓国人に理解し易く解説し、上梓して日本の魅力を伝え、訪日に寄与する役割を果たしている。また、各地域の観光関係の委員会に参画し、単なる営利目的や個人の知名度向上を超えた信念に基づき、日韓交流・理解増進に向けて活躍している。更に、アメリカの英語版ジャーナル Service Business An International Journal (Spinger) に学者として日本酒マーケティングの論文を掲載し、日本文化を世界に発信する役割も担っている。



いずみ とみお

泉 登美雄 氏 【特定非営利活動法人秋葉原観光推進協会 理事長】

秋葉原における外国人旅行者の受入体制整備

NPO法人秋葉原観光推進協会の理事長と2018年7月に設立した合同会社AKIBA観光協議会の代表として、「電気街」や「ポップカルチャーの聖地」として世界的に有名な秋葉原を取りまとめ、地域ブランドを活用したイベントやリピーターを増やす受け入れ体制の整備を推進している。



うざき いっそう

宇崎 逸聡 氏【サン・バイ・サンワークス有限会社 取締役社長】

映画を活用した日本の魅力の発信と訪日外国人誘客促進

北海道東部が重要な舞台である2009年中国正月映画「非誠勿擾」(フェイスエンウーラオ)の日本側の制作責任者を務めた。本映画は中国の正月映画として過去最高の興行成績を収める大ヒットを記録し、従来、札幌、洞爺湖、小樽など道央地区を巡る内容が中心であった中国からの北海道ツアーにおいて、道東も含めた北海道広域がクローズアップされるきっかけとなった。本映画に関連した誘客促進事業も奏功し、多数のツアーが催行されるなど、誘客促進に大きく貢献している。また、中国エンターテインメント業界との人脈を生かし、日本の魅力の情報発信、誘客促進に努めている。



かい けんいち

甲斐 賢一 氏【ホテル風月 会長】

地域ぐるみの外貨両替、外国人宿泊統計整備により別府での外客受入れを推進

平成9年より民間主導の「別府市外国人旅行者受入協議会」を設立し、その会長として17年にわたりインバウンドの受入環境整備に取り組んできた。具体的には、平成14年より宿泊施設における韓国ウォン、台湾ドル、香港ドル、中国元などの東アジア通貨の外貨両替や大学と連携した国籍別の外国人宿泊統計制度の確立、外国人留学生を活用したボランティアガイド(英語、韓国語、中国語、タイ語)の育成等を実現させた。現在は東南アジアや中国はもちろん、中東、エジプトまで足を運び、別府市や大分県の外国人宿泊者数をこの間ずっと増加させている。また、元教職の適性を活かし、全国各地で実務と受け入れの心を説き、講演を多数行い訪日外客増加に貢献している。



かわしま ひさお

川島 久男 氏【川島アソシエイツ 代表】

運営の専門家として国際会議の振興に貢献

国際会議運営の専門家として長年にわたり全国各地で講演、コンサルティングを実施し、会議誘致のポイントや、収益を意識した会議の運営方法等を広く紹介している。日本人として唯一、世界的な会議運営組織の団体である「国際PCO協会(IAPCO)」において講師としても活動(95年～01年)するなど、その取組は海外でも知られている。

国内では、観光庁の「国際会議誘致ハンドブック」やJNTOの「国際会議マニュアル」等の刊行にも携わり、国際会議誘致・運営の具体的な知識の普及に貢献すると共に、JNTO国際会議支援セミナー講師を長年務めた他、「国際会議誘致・開催貢献者表彰」選考委員を務め、国際会議誘致の発展・啓蒙に尽力している。



きむら かずまさ

木村 和雅 氏【京都シルク株式会社 代表取締役】

外国人の喜ぶ日本のお土産の開発を通して日本の魅力を発信

40年以上にわたり、外国人に喜ばれる日本のお土産を開発、インターネット等を通じて国内外に販売し、日本の魅力の発信に貢献している。これらのお土産は、ビジット・ジャパン・キャンペーン「魅力ある日本のおみやげコンテスト」において、金賞はじめ数多く表彰されている。

更に、各国の旅行博覧会に積極的に参加し、日本の魅力を伝え訪日外国人の誘客に積極的に取り組んでいる。



きりたに

桐谷 エリザベス氏 (米) 【ジャーナリスト】

米国を中心に日本文化の魅力、日本の良さを海外に発信

1979年に来日、東京の下町・台東区谷中に居住し、その間自分の著書や夫である桐谷逸夫氏との共著、英字新聞への寄稿などを通じて、米国を中心に日本文化の魅力、日本の良さを海外に発信してきている。また、地元での講演会等を通じて、日本人が気づかない日本の魅力、外国人から見た日本の魅力など、インバウンドを進める上での重要な気づきを与える活動を行う等地域の国際観光振興に大きく貢献している。現在はボストンに住み、日米間を行き来しながら活動を続けている。



コウ イ

孔 怡氏 (中) 【株式会社天怡 代表】

テレビ・ラジオを通じて日本観光の情報発信、アジア観光客の受入体制整備

上海のラジオ局で日本滞在談コーナーを持ち、関西の情報などを伝えることによって、日本への誘客促進に貢献している。また、関西各地で開催されるアジア観光客の受入体制を考えるフォーラム、講演会等において中国人市場の特性についてのアドバイスを行い、相互理解の普及に努めるほか、VJC地方連携事業に参加し、日本の観光情報の発信を行っている。更に、大阪観光コンベンション協会における「外国人観光客対応マニュアル」作成や「ひとり歩き点検隊」に参加し、外国人から見た受入体制整備に取り組んでいる。



コシノ ジュンコ氏 【デザイナー】

すずき ひろゆき

鈴木 弘之氏 【JUNKO KOSHINO株式会社 代表取締役】

「和」のイメージを体現したファッションを通じて日本を広く海外に発信

コシノジュンコ氏は、世界的なデザイナーとして、日本の魅力を世界に発信している。日本政府の「文化・交流ミッション」や「クールジャパン推進会議」のメンバーとして活動。ニューヨークやポーランドのワルシャワにて、日本食を紹介するイベントをプロデュースし、日本食文化を安倍首相(当時)と共にPR。SEA GAMES2013のミャンマー代表団ユニフォームのデザインや、世界的に活躍する和太鼓パフォーマンスグループTAOの衣装を手掛けている。



鈴木弘之氏は、写真家としても活躍。『震災復興支援感謝「TOKYO 東京」写真展』上海美術館、『震災復興支援感謝写真展「Moments in construction」』KPF London Gallery、『THE NEXT LEVEL』ニューヨーク グランドセントラル駅 トランジットミュージアムなどにおいて写真展を行う。

ごとう てんしょう

後藤 典生 氏【高台寺 執事長】

京都の寺社の新鮮な取り組み、日本文化やもてなし「和」の魅力情報発信

経済産業省・国土交通省の「ラグジュアリー・トラベルマーケット調査事業」のアドバイザーとして仏閣、伝統工芸等の助言を行い、2007年にフランス・カンヌで開催された「インターナショナル・ラグジュアリー・トラベルマーケット」のオープニングパーティーにおいて「和」の魅力を紹介し、訪日外国人誘客促進に貢献している。非公開であった高台寺を1989年に一般に公開し、2007年の来訪者は80万人を超えている。1994年に同寺院が京都の寺社にさきがけて開始した夜間のライトアップは他の寺社にも広がりを見せ、訪日外国人にとって夜の京都の観光資源として欠かせないものとなっている。



こやなぎ じゅん

小柳 淳 氏【株式会社ホテル小田急 代表取締役社長】

鉄道事業者として外客向け案内所開設や歓迎イベントを推進

小田急電鉄はVJCに先立ち、箱根・神奈川地区への玄関口である新宿駅に「小田急外国人旅行センター」を設置し、さらに、同案内所を(独)国際観光振興機構(JNTO)指定の「ビジット・ジャパン案内所」(外国人対応日本観光案内所)に発展させ広く外客への情報提供に努めてきた。小柳氏はその中でリーダー的役割を果たしてきた。また、鉄道利用の外客個人用パック商品の先駆けとなるツアー造成にも率先して取り組んだ。さらに、東アジアからの来訪が多い旧正月期に箱根地区のプロモーションのために「箱根歓迎春節遊客」を実施するとともに、同企画を新宿、江の島、伊東地区にも応用した。その後、旅行業者としてインバウンドの市場エリア拡大に努めている。



さとう ひろやす

佐藤 博康 氏【松本大学 名誉教授】

地方の自治体と協力して多様なインバウンド環境づくり

13年間に渡り世界にクールな日本を紹介するNHK BS1「Cool Japan」の制作に関するアドバイスや同番組への出演等を通じて、現代の日本の文化やライフスタイル、日本の観光魅力を世界各国・地域の若者等に紹介することに貢献。また、ツアーオペレーターの質的向上と普及を目指す委員会やさまざまな訪日旅行者受け入れプロジェクトの普及活動などに参加。旧中山道宿場域におけるウォーキング客のニーズを中心に外客誘致に関するアドバイスや研究を行うなど、新たなインバウンド観光の市場創生と受入普及に向けた活動を行っている。



さわ いさお

澤 功 氏【澤の屋旅館 館主】

地域と一体となったホスピタリティあふれる外国人旅行者の受入体制整備

積極的に外国人旅行者を受入れてきた自身の経験を、講演や出版を通じて紹介し、訪日外国人旅行者受入促進や体制整備に貢献している。「澤の屋旅館」は、宿泊客の9割が外国人客で年間客室稼働率が90%を越えており、これまでに100か国、延べ15万人の外国人客を受け入れ、地域と一体となった国際交流に貢献している。利用者の3割がリピーターであることに表われているように、宿泊者に対するホスピタリティあふれる取り組みが高く評価され、外国人旅行者を受け入れる旅館の手本となっており、2003年には観光カリスマに認定されている。(「下町の外国人もてなしカリスマ」)



シャウエッカー ステファン氏 (スイス) 【ジャパンガイド株式会社 創設者、編集長】

WEBを通じて日本の観光魅力の紹介に貢献

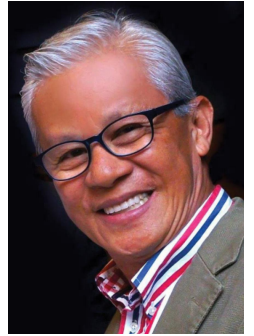
平成8年から英語による日本紹介のサイト「japan-guide.com」を運営。立ち上げ時には取材、写真撮影、記事の執筆等サイト運営にかかることをほとんど一人で行っていった。本サイトは外国人観光客の興味・関心に沿うように内容が構成され、外国人にとって非常に使いやすいものとなっている。本サイトの1ヶ月のページビューは約800万ビューであり、日本の観光を紹介するサイトの中でも有数のアクセスを誇っており、外国人観光客に対する日本の観光魅力の紹介に多大な貢献をしている。



ジョージリム チーメン氏 (シンガポール) 【Ishikawa Communications 創設者】

無料情報誌の発行により、日本への旅行者送客に貢献

1981年以降、日本を熱心に旅行しており、今でも定期的に日本に渡航している。日本観光に関する深い経験と洞察力に富んだ知識を活かし、シンガポールとマレーシアの旅行市場にアプローチすることに尽力。ビジット・ジャパン・キャンペーンが開始して以来、日本の自治体等との連携の下、シンガポールの人気会場で一般向けの日本観光イベントをいくつか企画し、2006年シンガポールで日本旅行専門の無料雑誌「GoJAPAN」を創刊した。また、2007年以降、シンガポールのショッピングモールでのジャパントラベルフェアの企画の先駆者として、約10件のトラベルフェアをプロデュースし、2010年に初めて出版したDIYジャパントラベルガイドブックは1年以内にすべて完売した。2014年以降は、旅行消費者向けに16回の日本観光セミナーを開催している。また、近い将来、日本の教育旅行市場をさらに発展させる計画を考えている。



ジョンゴントナー氏 (米) 【Sake World Inc. 取締役】

日本酒を通じた日本文化の発信

日本酒に関する情報発信を国内外で積極的に行うことにより、日本酒ファンの来日促進に貢献している。全米各地のジャパソサエティーや、ケネディセンター、ハーバード大学やコロンビア大学等、また米国以外においても香港、中国、英国などで講演を行うほか、日本及び米国において外国人向けに「酒プロフェッショナルコース」という講習を毎年開催し、日本酒に関する知識の普及に努めている。日米で開催する「酒プロフェッショナルコース」は毎回満員となっており、日本でのコースについてもほとんどが外国からの参加となっているほか、日本の酒どころをめぐる「Sake Brewery Tour」を企画するなど、日本酒をテーマにした外国人旅行者の誘客促進にも努めている。



高橋 正美氏 たかはし まさみ 【富士箱根ゲストハウス 代表】

外国人観光客も、地域も、働く人たちも幸せになる「心の啓発」を説く

箱根で経営する宿泊施設において過去40年間に世界80カ国から20万人を超える外国人宿泊客を受入れて日本の生活文化を紹介する一方、著書「富士箱根ゲストハウスの外国人宿泊客はなぜリピーターになるのか？」(あさ出版)の中で、一般市民、自治体職員、次世代、業界人等を対象に、外国人客を迎える「心構え」、接する「心掛け」、もてなす「心得」、向き合う「心配り」、寄り添う「心遣い」の実例を紹介して、外国人観光客も、地域も、働く人たちも幸せになる「心の啓発」を説いている。次世代育成プログラムやインバウンドの受入環境整備に関する講演活動は、米国Cornell大学が実施したアジアにおけるホスピタリティ産業調査で「Best Practice Champion」に選ばれた他、神奈川県知事より「第3回かながわ観光大賞」を受賞している。



たき ひさお

滝久雄氏 【株式会社ぐるなび 代表取締役会長・創業者】

飲食店検索サイトを多言語で運営、日本の食文化の魅力を海外へ発信

海外旅行の目的の大きな割合を占めるのが「食」であり、「食」に繊細なこだわりをもつ日本の国民性から、訪日外国人の「食」に対する期待は大きい。13年前に同氏が立ち上げた日本最大級の飲食店検索サイト「ぐるなび」は、「食」に関するきめ細かいリアルタイムの情報サービスの提供により、月間8億5千万ページビュー、月間ユニークユーザ数1,800万人、詳細情報掲載店舗数6万2,000店に拡大。その情報力を活かし、訪日外国人を対象とする4カ国語(英・中国簡体・中国繁体・韓国)による情報提供をウェブおよびガイドブックで提供しており、同社が得意とする食の情報に関する分野での訪日外国人の受入体制整備と食文化の情報発信に大きく貢献している。



たなか
田中まこ氏 【ジャパン・フィルムコミッション 顧問】

フィルムコミッションの活動を通じ、神戸の魅力を海外に発信

映像制作での豊かな経験をもとにフィルムコミッション活動を推進し、欧米、アジアなどのフィルムコミッショナーやエンターテインメント産業への幅広いネットワークを活かして国内外のロケを積極的に誘致し、年間10件前後の海外作品の撮影を支援して神戸の映像・魅力の発信に尽力している。2001年にはアジア初のAFCI(国際フィルムコミッショナーズ協会)の理事を務めた他、2004年にはAFCNet(アジア・フィルムコミッション・ネットワーク)の立ち上げに尽力し、副会長を務めるなど、日本のフィルムコミッションの国際的な活動で先導的な役割を担い、映像を通じた訪日外国人誘客促進に貢献しており、2003年には観光カリスマに認定されている。(「映像による地域振興・観光隆盛のカリスマ」)2016年から2019年10月までジャパン・フィルムコミッション理事長、2019年11月からジャパン・フィルムコミッション顧問に就任。



チョ ソンハ

趙誠夏氏(韓) 【旅行ライター】【東亜日報・チャンネルA 消費者経済担当デスク】

韓国メディアを通じた訪日スキー・文化体験を目的とした訪日旅行の振興

1920年創刊の「東亜日報」旅行ライター。旅行記事執筆のパイオニア、観光ジャーナリストとして1995年より韓国で活躍。日本の観光市場に関しスキーや温泉、日本酒、国内鉄道旅行を韓国に紹介したことで知られる。同年に北海道へのスキーツアーを初めて韓国の旅行代理店やスキー愛好家に紹介したジャーナリストとしても有名。以来毎シーズン日本全国40ヶ所以上のスキー場を訪れ、新聞、雑誌、自身のサイトに記事・写真を掲載。日本酒と料理を旅館で楽しむ温泉旅行、周遊切符での鉄道旅行を早期に提案し、韓国で同様の旅行スタイルが流行するきっかけを作った。日本の様々な観光名所をPRし、訪日促進に地道に取り組む。1982年以来東亜日報専属記者。



チン カイトウ

陳海騰氏(中) 【東和株式会社 代表取締役】

WEBを通じて中国人旅行者の誘客に貢献

中国大手旅行会社にて日本部部長を務め、その後神戸大学での留学経験を生かし、前職にてWEBを通じた中国人旅行者の誘客に貢献。VJCにおける連携事業として中国語(簡体字)サイトの立ち上げにより、アクセス数が飛躍的に増加。個人観光ビザの解禁を契機とした富裕層中心の中国人観光客誘致に必要な情報提供、受入体制整備などについて日本各地での講演を実施。現在日中WEBマーケティング、グローバル人材紹介、医療ツーリズム(男性向け)や美容ツアー(女性向け)、文化交流ツアー(学生向け)を展開している。



つじむら ゆか

辻村 由佳氏【一般財団法人国際観光サービスセンター 成田国際空港ツーリストインフォメーションセンター 所長】

外国人観光案内所での対応を通じた旅行環境の整備

日本を訪れた外国人旅行者が最初に日本の情報を得る場である成田国際空港外国人観光案内所(TIC)で、どんな小さな問い合わせにも相手が納得するまで対応するということをモットーとして、外国人旅行者が日本を楽しく旅行できる環境づくりに努めてきた。訪日外国人の生の声に直接接する機会が最も多い立場あることから、現場で得た訪日外国人のニーズを把握し、それを講演等を通じて情報発信することにより、訪日外国人受入体制整備に積極的に取り組んでいる。



とがわ よしあき

外川 凱昭氏【富ノ湖ホテル株式会社 代表取締役】

訪日外国人向け施設整備による先駆的な受入体制整備

VJCの開始前から、外国人旅行者の受入れの重要性を認識し、日本を象徴する富士山の麓という地理的条件を活かして外客受入れに対応したホテルを建設する等、先駆的な取り組みを実施している。さらに、一般社団法人日本旅館協会の理事として、自らの外国人旅行者受入れの取り組みを広く示し、旅館経営の改善や、「お・も・て・な・し」について、他の旅館の啓蒙に注力している他、富士五湖観光連盟の役員も務め、世界文化遺産「富士山」の価値の継承、富士五湖周辺地域の観光客誘致の促進、ホスピタリティの向上に努めている。



なかむら ゆたか

中村 裕氏【学校法人トラベルジャーナル学園ホスピタリティーツーリズム専門学校校長】

ホテルと地域との連携による受入体制整備、外国人利用者の利便性向上

ロイヤルパークホテル周辺地域(日本橋)の飲食店に対し、メニューの英語化・電話による補助・英会話レッスンを無料で行うなど地域と連携した訪日外国人の受入体制の整備に努めてきた。セブン銀行のATMの設置や、「びあ」との業務提携による相撲や歌舞伎などのチケット発券のための端末機の設置など、訪日外国人受入体制設備の促進に取り組んだ。これらの活動は、ホテル業界における訪日外国人誘客促進の活動の良き手本となっている。人材育成に注力し教育にも力を入れ、おもてなし運動の広がりにも力を入れている。

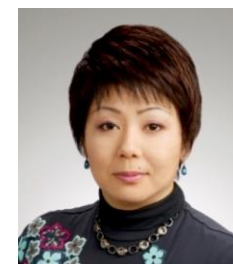


なみき えみ

波木 恵美氏【鬼怒川グランドホテル夢の季 代表取締役社長】

組織的なインバウンド誘致活動を積極的に行い外国人宿泊客増に貢献

旅館業をこなしながら、鬼怒川・川治温泉観光協会内に平成16年に設置された「訪日外国人誘致委員会」の委員長をつとめ、それまで個々のホテル等で取り組んでいたインバウンド誘致活動を協会の組織的な活動へと集約した。中国・香港・台湾地域へのキャラバンや国際観光展への積極的な参加など、国・県等の外客誘致施策と連携した訪日外国人誘致促進事業に継続的に取り組んでおり、近年の鬼怒川・川治温泉地区における外国人宿泊客の大幅な増加という成果をもたらした。



はっとり さちこ
服部 祐子 氏【エスパスハットリ・日仏文化交流会 会長】

私営の日仏文化センターで日本文化を紹介し仏国における訪日促進に貢献

フランスがVJC重点市場となる以前の平成5年にパリに独力で「日仏文化センター」を設立し、美術工芸、演劇、音楽を含む様々な分野で日本文化を紹介する事業を展開してより多くのフランス人が日本に興味を持ち訪れたいという気持ちを起こすことに尽力してきた。平成24年より名称を「エスパスハットリ・日仏文化交流会」と改め、以後日仏文化交流事業企画／実施におけるコンサルタント業に重点を置き、長年の経験を生かした主要関係者との人的ネットワークによって東日本震災復興支援活動、日本地方文化紹介のほか、食文化を通しての日仏交流、日本と関連する仏国企業人員の日本文化指導等、多方面にてフランスにおける訪日誘致活動に貢献している。



ひがし よしかず
東 良和 氏【沖縄ツーリスト株式会社 代表取締役会長】

沖縄と北海道への外国人誘客促進、受入れ態勢を整備

1958年創業の沖縄ツーリスト代表取締役社長として、沖縄への外国人誘客促進に積極的に取り組んできた。近年では、台北にレンタカー予約センターを開設し、台湾・香港からの顧客に対し母国語での正確な情報提供と四言語(英・中・韓・日)対応のカーナビゲーション・システムや安全運転シミュレータの導入により、安全で快適な外国人のレンタカー利用を促進してきた。また、全国的にも先進的にムスリム観光客への受入れ態勢を整え、2012年にはツアーグランプリを受賞した。さらには、北海道の関連会社株ZERO PLANNINGと共同して、札幌市内にムスリム観光客のための本格的な礼拝施設等を備えた旅行サロンを開設し、東南アジアから北海道への誘客にも尽力している。



ふくたけ そいちろう
福武 総一郎 氏【株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長】

アートプロジェクト基軸に瀬戸内海地域の資源や魅力を世界に発信

ベネッセアートサイト直島代表。1989年より、直島(香川県)に美術館と宿泊施設を兼ねた「ベネッセハウス」を開設。古民家を活かした本村地区の「家プロジェクト」、安藤忠雄氏建築による地中美術館等25年間にわたり現代アートを活用し、過疎の離島で住民の笑顔を取り戻すダイナミックな地域づくりを実践している。2010年、2013年には、自身が総合プロデューサーを務めて「瀬戸内国際芸術祭」を開催。2013年には、国内外からのべ107万人の来島者を迎えた。世界的な旅行ガイド『lonley planet “Japan travel guide”』(2013年9月発行版)では、巻頭特集「Japan's Top 25」で直島が20番目に掲載された。



ベスライバー 氏 (*) 【フリー旅行ライター】【Frommer's Japan・Frommer's Tokyo 著者】

約30年に亘り米国のガイドブックで日本の情報を発信

米国の草分け的旅行ガイドブック「Frommer's」を中心に、30年近く日本の旅行を題材に執筆活動を行う。第1版から第11版まで改訂を重ねた同ガイドは、日本の観光のトレンドの変遷を見事に捉えている。2年毎のガイド改訂の際は、必ず観光名所を自ら再訪し情報を集め、長期にわたる観察に基づき、JNTOや地方自治体向けに外国人旅行者の経験をより良いものにする方法についてフィードバックしている。また、日本航空の機内誌「Skyward」、「AAA Traveler」、「Destination Hyatt」、2007年に開設したVJCの北米向けウェブサイトの記事やブログなどに、日本に関し多数の記事を執筆している。CNNのコメンテーターとして出演、さらにJNTOが在ニューヨーク日本国総領事館で開催した九州PRメディアイベントでゲストとして講演した。



べっしょ てつや

別所 哲也 氏【俳優】【『ショートショート フィルムフェスティバル & アジア』 代表】

ショートフィルムを通じた文化交流と誘客に貢献

若手映像クリエイターの才能の原石であるショートフィルムにいち早く注目し、1999年より日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル」を主宰。1999年から全国13都市、海外4都市にて開催され、のべ28万人以上の観客を動員し、2004年には米国アカデミー賞公認映画祭に認定された。また、2004年からは「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」も東京で同時開催され、アジア各国をはじめとした世界中の人々との交流の場を作り出している。また、「旅好きの“したい”」をテーマに、旅に関する様々な映像、情報コンテンツを集めた旅総合情報サイト「旅もじゃ(旅・モーショ・ジャポン)」を立ち上げた。



ベルナール デルマス 氏 (仏) 【ミシュラングループ シニアアドバイザー】

世界的に有名なガイドブックの発行により、日本の魅力を世界に発信

フランスのレストラン&ホテルガイド「ミシュランガイド」の東京・横浜・湘南版や、訪日外国人観光客向けのフランス語実用旅行ガイド「ミシュラン・ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン」、日本の文化をより深く理解できるよう歴史等も詳しく説明している「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」など、日本の食、文化、生活、芸術、経済等の魅力を伝えるガイドブックの発刊にあたりVJ事業との連携を進めるなど重要な役割を果たし、訪日外国人旅行者誘客に貢献している。2013年2月に発売された「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂第3版(フランス語)では、新たに鎌倉が「わざわざ旅行する価値がある」を意味する三つ星(★★★)の仲間入りをした。掲載地は外国人観光客が大幅に増える等、絶大な誘客効果が表れている。



ほしこ せいいち

星子 誠一 氏【株式会社ジェイブイケイ 会長】

ビジュアル系ミュージックの海外発信を通じた訪日外国人誘客促進

雑誌、インターネット、ライブなどの手段を駆使して新しい日本のポップカルチャーとしてビジュアル系ミュージックを広く海外に広め、外国人の訪日促進に貢献している。世界最大級の日本音楽情報専門サイトとの提携や、海外公演などを通じてビジュアル系ミュージックに関する情報を世界に積極的に発信することにより、主催するコンサートには全来場者数の約15%に相当する18万人の外国人が訪れている。



マオ タンセイ

毛 丹青 氏 (中) 【作家】【神戸国際大学教授】

中国人から見た日本を紹介し日中文化交流に貢献

1987年に来日して以来、日本各地を旅し、中国人の目で見えた「ありのままの日本」を中国の主要な旅行雑誌などで特集記事として紹介してきた。毎年のように中国各地の大学に赴き、「日本と私の日常」というテーマで講演を行うなど、日中文化交流に尽力している。VJCの一環として中国での日本観光をPRするDVDの作成に関わるとともに、著書やブログを通じて日本のよさを積極的に発信する等、2011年に日本文化に特化したビジュアル月刊誌『知日』を創刊、その主筆を務める。日本に対する中国人の理解増大に大きく貢献している。



まち たかし

町孝氏【JR九州ビルマネジメント株式会社 代表取締役社長】

九州における受入体制整備を進め、韓国からの誘客促進に貢献

博多駅長時代、全国に先駆けて、駅のハングル表記を実態に合わせた分かり易いものに改善。ジェイアール九州ハウステンボスホテル社長就任後は、韓国人スタッフの採用、ハングル表示など韓国人観光客の受入体制を整備した。また、周辺地区(特に長崎県波佐見町)の地域づくりにも参画し、韓国康津郡との焼き物を通じた交流の橋渡し役となった。鉄道乗り降り自由のフリー商品「九州レールパス」の「北部九州版」の導入や、韓国人ライター・カメラマンによるガイドブック作成・配布、釜山-対馬(比田勝)航路開設により、訪日外国人の九州内周遊の利便性向上に貢献している。また、日韓5大学で観光学の客員教授などを務め、若者の相互理解・交流促進にも貢献している。



まつやま だいこう

松山大耕氏【妙心寺退蔵院 副住職】

禅の心を通じた日本文化の発信、外国人観光客受入体制の整備に貢献

1978年京都市生まれ。2003年東京大学大学院農学生命科学研究科修了。2006年より現職。

外国人に禅体験を紹介するツアーや伝統的な寺院で新たな芸術家を生み出すプロジェクトを企画するなど、新しい試みに取り組む。

2008年には退蔵院にてG8サミットシェルパ会議一行を受け入れ、外国人記者クラブ・各国大使館、世界各地で多数講演を行うなど、日本文化の発信・交流が高く評価されている。また、2011年には、日本の禅宗を代表しヴァチカンにて前ローマ教皇に謁見し、世界のさまざまな宗教家・リーダーと交流。2014年1月には世界経済フォーラム(ダボス会議)に参加するなど、世界を股にかけ、宗教の垣根を越えて活動中。



マーティン バロウ氏 (英)【Japan Society 副会長】

【JARDINE MATHESONグループ MATHESON 商会取締役】

政府その他機関への助言により訪日促進に貢献

ロンドン在住。日本、香港、タイなど東アジアに長年駐在(1859年に日本に進出し「英一番館」の名で親しまれた商社、ジャーディン・マセソン・グループに勤務)。1962～1964年に初めてアジアを訪問する。イギリスから陸路で東アジアに向かい、1964年に日本行きの船に乗った。日本に2カ月滞在后、北海道から船でカナダへ渡った。日本では1979～80年まで在日英国商工会議所会頭を務め、香港では、8年間香港観光協会会長を務めた。東日本大震災後に3回東北を訪問するなど頻りに訪日し、観光庁や日本政府観光局その他の政府機関と、ジャパン・ブランド、クール・ジャパンを巡る幅広い課題について提言している。日本協会(Japan Society)、日英21世紀委員会(Japan 21st Century Group)会員。



まんどころ としこ

政所利子氏【株式会社 玄 代表取締役】

使いやすいガイドブック制作や日本文化を体験できるワークショップ開催を推進

長年にわたり海外留学生の受入れ活動に従事すると共に、日本各地のまちづくりに参画する中で、各地域の伝統工芸や文化等を活用した地域ブランドづくりを進め、国内・海外への情報発信、地域活性化に貢献している。また日本食及び日本文化の海外への情報発信にも力を入れている。各種国際プロジェクトに合わせてた日本紹介のガイドブックの編集。JAPAN ブランドプロデュース、海外での展示発表会等の企画・運営等の活動。駐在外国人、留学生向けや次世代継承の為の各種日本文化紹介ワークショップ企画及び実施。日本文化・日本食を体験するツアーの開催など、全国の地域づくり取組みと共働している。



むらやま まさひろ

村山 正弘 氏 【株式会社GINGAインターナショナル 代表取締役】

外国からの誘客を通して得た知識等を情報発信し、観光振興に貢献

東北地方におけるインバウンド取り組みの先駆者。ホテルマンとして、東北地方が外国人誘致に全面的に取り組んでいるとは言えなかった90年代後半に、台湾、香港等からの旅行者誘致に着手。誘客を通して得た知識・経験を自分だけのものとせず、研修会等で積極的に関係者に広く情報発信している。また、中華民国温泉観光協会国際顧問として、東北と台湾の温泉の相互交流を進め、台湾における東北の温泉地の認知度を向上などに積極的に取り組んでいる。



やはた さとこ

矢幡 聡子 氏 【株式会社コア・エス 代表取締役】

テレビ、雑誌等のメディアやイベントを通じ国際交流を促進

国連UNHCR協会及びマンハッタンスクール オブ ミュージックは理事は任期満期終了にて元理事となる。又、香港国際映画祭も任期終了。
2022年より一般財団法人ピースコミュニケーション財団理事を務める。
2023年10月 日本の職人技術を世界に広める社団法人を設立する。
又、2021年、長年にわたり日本とスペインの文化、観光との架け橋となり活動した功績が称えられスペイン王国国王陛下よりイザベル・ラ・カトリカ女王勲章を叙勲された。



やまざき

山崎 まゆみ 氏 【温泉エッセイスト】

露天温泉を海外に紹介し日本の温泉文化を海外に発信

初対面の人といきなり「裸の付き合い」ができる日本の温泉文化を世界に広めることが自らの使命との信念の下、日本の温泉を紹介した自著の繁体語版を台湾で販売。また、本人出演の番組が台湾全土、成田空港、複数の外国エアラインで放映され、日本の温泉文化の発信に貢献している。2009年に新潟県旅館組合とともにパリで「雪国と温泉展」を開催し、盛況に終わった。その後も度々温泉PRのため渡欧。また、VJ大使とのつながりも大切にし、国内各地のインバウンド関係者に温泉のレクチャーを精力的に行うとともに、温泉地の人達と外国人受け入れ態勢を考える講演等を実施。なお、東京五輪・パラリンピックに向け、日本の“バリアフリー温泉”の推進にも注力している。



よこえ ともり

横江 友則 氏 【一般社団法人 グローカル交流推進機構 専務理事】

乗り放題チケットを海外展開し外国人旅行者が交通機関を利用しやすい環境を整備

株式会社スルッとKANSAIにおいて、1996年に関西の鉄道事業者5社でスタートした共通乗車カードのネットワークを関西圏の鉄道・バス事業者59社にまで拡大させるとともに、外国人観光客専用の乗り放題共通乗車券である「KANSAI THRU PASS」を商品化して2000年より海外で販売し、公共交通機関を自由に乗り継ぎながらさまざまな観光資源を旅行者自身が開拓する新しい観光スタイルである「開放型観光」を定着させた。現在24ヵ国・地域の諸外国の方々に利用されるに至っており、また現職においても、私鉄・JR西日本とも連携し訪日外国人旅行者の公共交通機関の利用円滑化に貢献している。



よしざわ つとむ

吉澤 勉 氏【株式会社 プレステージ・コアソリューション 地方創生事業開発室長】

家電量販店における外国人旅行者の受入体制整備

家電量販店で初めて銀聯カードを導入すると共に、売り場での多言語表記などを率先して取り入れ、中国人をはじめとする外国人旅行者の受入に尽力している。漢字社名を縁起が良いとされる「友都八喜(中国語読み):ヨドバシ」と定めるほか、店内の外国語案内表示の外国人の視点によるチェック、中国語・韓国語・英語を話せる従業員の採用、VJ事業と連携した旅行博覧会への出展等に積極的に取り組んでいる。また、外国人顧客の獲得及び小売業を海外に誇れる観光資源に育てることの重要性について、講演などにより業種・業界を超えて幅広く啓蒙を行い、外国人旅行者の集客拡大に貢献している。更には、東南アジア各国からの招致活動に積極的に取り組んでいる。



ルーク ハッフオード氏 (豪) 【YTL ホテルズ 副社長】

(元ニセコビレッジ株式会社 支配人) (元 ぶらの観光協会誘客宣伝担当)

ニセコやぶらのの通年リゾート化・国際的リゾート化を推進

富良野を世界のスキー客が集まる人気スキーリゾートの一つにするため尽力し、文化交流、地元ボランティアによるガイドツアー、多言語サービス、交通網整備、リゾートサービス、各地のリフト券開発に幅広く携わった。北海道の魅力を精力的に世界に宣伝し、京都・北海道国際観光客誘致推進協議会の創設にも貢献。ニセコビレッジの総支配人として、多様なサービス・特典の導入やファミリー重視の体験メニューを通じ、ニセコを外国人スキー客に魅力的な目的地に変え、通年リゾート化を実現。日本と欧米の文化とおもてなしの心を融合させ、究極のスキー体験、アウトドア体験の創造に取り組んでいる。VISIT JAPAN大使の立場で、国際的なスキーリゾート、観光目的地として日本の魅力を伝え続けている。



わたなべ あつみ

渡辺 厚 氏【株式会社あいわす(前身となる株式会社情報伝達研究所より事業継承) 顧問】

誘致活動の専門家として国際会議の振興に貢献

国際会議都市作りの草創期から、数多くのコンサルティングや事業参画を行っている。国際会議を「地域を見直す契機」と捉え、国際会議は「街おこしに貢献」できる「地域の創意工夫の賜物」であり、成功のためには「地域の人材育成と人脈が重要」とあるとの理念の下、各地で講演を行い、国際会議誘致活動の意義の啓蒙に努めている。さらに、各都市における国際会議関係の委員会の委員も務め、国際会議誘致促進による地域の活性化に取り組むとともに、大学ではMICE講座の講師を務め、次代の国際会議誘致を担う人材の育成にも注力している。



(備考)氏名の次の括弧()内は国籍。ただし日本国籍の場合は記述していない。